

科目名	仏教と平和					単位	2.0
担当教員	菱木 政晴						
授業形態	講義	開講期間	前期	配当年次	1	授業番号	2412

●授業のテーマ
戦争と宗教

●到達目標

宗教「思想」と戦争との関係だけではなく、現実の宗教団体(教団)と戦争の関係について具体的に認識すること。

●学習内容(授業概要)

宗教が平和などの社会的なテーマに対応する態度はつぎの三種類に分類できよう。すなわち、①平和を目指す、戦争に反対する、②戦争を支え信者に参戦を納得させる、③戦争や平和とは無縁に信仰を説く。

多くの宗教は①を建前としつつ③に徹しようとしてきた。ところが、③の態度は実際にはほとんど②になっていく。それはなぜなのか。具体的な資料を基に考察していきたい。

●学習内容(授業計画)

1. イントロダクション 「殺してはならぬ、殺させてはならぬ」
2. 近代日本における戦争①開始、相手、戦場
3. 近代日本における戦争②殺された人と相手戦場との関係
4. いわゆる靖国問題とはなにか①敬意と感謝とは何か
5. いわゆる靖国問題とはなにか②誰が感謝し、誰が謝罪するか
6. 日本国憲法の政教分離と帝国憲法との比較①
7. 資料の学習
8. 合祀
9. 宗教の戦争責任
10. 日本国憲法の政教分離と帝国憲法との比較②
11. 浄土真宗の戦争責任
12. 政教分離訴訟と仏教者の戦争責任
13. 資料の学習
14. まとめ
15. 試験(小テスト)

●準備学習・事後学習の内容

特に必要ないが、とにかく論理的思考を磨くために、講義内容を覚えるのではなく、講義で提示されたデータを自分で吟味し、自分の論理を構築する練習をする。自分の論理を構築すること自体は、いかなる学習においても求められる。

●成績評価方法・基準

すべて、各期末の筆記試験、または、レポートによる評価

●テキスト（必携）
特になし。

●参考文献／その他
菱木政晴『市民的自由の危機と宗教』（白澤社、2007年）

●履修上の注意
特になし。